プレスリリース



9/5(金)~9/26(金) 横浜市民ギャラリー

=ュ-7-ト展2008 ブラジル×ヨコハマ 時の懸け橋

趣旨および概要

横浜市民ギャラリーでは、多くの人々に気軽に現代の多様なアートを楽しんでいただく場として、毎年「ニューアート展」を開催しています。

今回はブラジル移民100周年を記念して、ブラジルと日本の美術の交流を紹介する展覧会を2部構成で開催します。ブラジルへの移民は1908年に神戸港を出港した笠戸丸に始まりました。現在ブラジルにはその子孫である日系人約150万人が住み、様々な分野で活躍しています。美術界においても日系人作家は、ブラジルの雄大な風土を背景に、東洋の美意識とラテン的な文化を融合した独特の美の世界を生みだし、国際的に高い評価を得ています。横浜は、戦後横浜港からアルゼンチナ丸やサントス丸などの移民船で多くの日本人が海を渡ったことから、ブラジルと深いゆかりがあります。

本展は同時期に開催される横浜トリエンナーレ2008のテーマ「タイム・クレヴァス」との関連から、100年という時間と、ブラジルと日本という地理的なクレヴァスを越えて活躍する日系人画家たちの歩みを明らかにするとともに、若手作家による現代のブラジルと日本の美術交流を紹介し、ブラジルとヨコハマの間に美術の懸け橋をかけることを目指しています。

第1部 ブラジル日系画家100年の歩み

第1部は、ブラジル日本文化福祉協会との共催で開催する日本全国巡回展です。第1世代から第4世代までの日系画家の100年にわたる歩みを44作家78点で紹介します。日本初公開となる藤田嗣治のブラジル滞在中の作品をはじめ、"ブラジルのピカソ"と呼ばれた間部学の抽象画、ブラジル現代アートの巨匠で、95歳で今なお精力的に活動を続ける大竹富江や、近年日本でも人気の高い大岩オスカールや工藤ジェームスの作品など、見ごたえのある内容です。

第2部 日本・ブラジル現代アートの交流

第2部は横浜市民ギャラリーの独自企画です。国際的に活躍する、日本とブラジルの若手現代作家を取り上げ、それぞれの国の自然や風土、文化や芸術からインスピレーションを受けて制作された、新しい表現を紹介します。

サンパウロ・ビエンナーレへの出品以降、日本とブラジルで両国からの影響の色濃い立体やインスタレーションの発表を続けている三梨伸、ブラジルの色彩の豊かさに対する記憶を透明感のある立体に表現する鈴木亘彦、自らの女性性を追及するような幻想的な映像作品を制作するジャナイナ・チェッペ、ポルトガル語の詩書き連ねたドローイングを日本の古地図と組み合わせた作品などで、自らのルーツを追求する新進日系ブラジル人の上西エリカの4名が出品します。

- 開館時間 10:00~18:00(入館は17:30まで) 休館日 会期中なし
- 入場料 一般(18歳以上)500円
 - *18歳未満は無料 *障害者手帳をお持ちの方とその介護者(1名)は無料
- 会場 横浜市民ギャラリー3階展示室 横浜市中区万代町1-1 教育文化センター内 TEL:045-224-7920 FAX:045-224-7928 http://www.yaf.or.jp/ycag/

(第1部、第2部とも)

- ●主催:横浜市民ギャラリー(横浜市芸術文化振興財団)
- ●後援:ブラジル大使館、横浜市市民活力推進局、NHK横浜放送局、横浜トルンナーレ組織委員会、神奈川新聞社、tvk、アール・エフ・ラジオ日本FM横浜、横浜市ケーブルテレビ協議会
- 助成 芸術文化振興基金
- 協賛 UCC上島珈琲株式会社、ガラナ・アンタルチカ(荒井商事株式会社)
- 認定 日伯交流年事業

(第2部のみ)

- ●主催:ブラジル日本文化福祉協会
- ●共催:ブラジル日本移民100周年記念組織委員会、日本日伯交流年実行委員会
- ●後援:(社)日本ブラジル中央協会、特定法人京都藝際交流協会(JAFRO)



横浜市民ギャラリー

出品作家紹介 1

第1部 ブラジル日系画家100年の歩み

<第1世代>

沖中 正男(おきなか・まさお/Masao Okinaka 1913-2000)

神永井 正(かみながい・ただし/Tadashi Kaminagai 1898-1982)

高岡 由也(たかおか・よしや/Yoshiya Takaoka 1909-1978)

玉木 勇次(たまき・ゆうじ/Yuji Tamaki 1916-1979)

半田 知雄(はんだ・ともお/Tomoo Handa 1906-1996)

藤田 嗣治(ふじた・つぐはる/Tsuguharu Fujita 1886-1968)

<第2世代>

大竹 富江(おおたけ・とみえ/Tomie Otake 1913~)

田中 四郎(たなか・しろう/Flavio Shiro Tanaka)

間部 学(まべ・まなぶ/Manabu Mabe 1924-1997)

<第3世代>

金子 謙一(かねこ・けんいち/Kenichi Kaneko 1935~)

楠野 友繁(くすの・ともしげ/Tomoshige Kusuno 1935~)

久保田 アルツール(くぼた・あるつーる/Artur Kubota 1932~)

木暮 光孝(こぐれ・みつたか/Mitsutaka Kogure 1938~2002)

越石 幸子(こしこく・さちこ/Sachiko Koshikoku)

近藤 敏(こんどう・びん/Bin Kondo 1937~)

榊原 久雄(さかきばら・ひさお/Hisao Sakakibara 1937~)

柴田 イネス(しばた・いねす/Inez Shibata 1933~)

鈴木 幸男(すずき・ゆきお/Yukio Suzuki 1926-2004)

田菊 ふみ(たぎく・ふみ/Fumi Tagiku)

豊田 豊(とよた・ゆたか/Yutaka Toyota 1931~)

原田 美弥子(はらだ・みやこ/Miyako Harada 1963~)

廣田 健一(ひろた・けんいち/Ken'ichi Hirota 1932-2004)

三浦 義幸(みうら・よしゆき/Yoshivuki Miura)

若林 和男(わかばやし・かずお/Kazuo Wakabayashi 1931~)

<第4世代>

島袋 アデマール(しまぶくろ・あでまーる/Ademar Shimabukuro

岡本 アヤオ(おかもと・あやお/Ayao Okamoto 1953~)

小田 エルザ(おだ・えるざ/Elza Oda 1941~)

吉沢 太(よしざわ・ふとし/Futoshi Yoshizawa 1964~)

高瀬 ヘルマン(たかせ・へるまん/Hermann Takase 1962~)

工藤 ジェームス(くどう・じぇーむす/James Kudo 1967~)

中久保 マスオ(なかくぼ・ますお/Massuo Nakakubo 1938~)

畑中 ミドリ(はたなか・みどり/Midori Hatanaka)

高田 ミルトン(たかだ・みるとん/Milton Takada 1954~)

近藤 直人(こんどう・なおと/Naoto Kodndo)

大岩 オスカール(おおいわ・おすかーる/Oscar oiwa 1965~)

沖中 ロベルト(おきなか・ろべると/Roberto Okinaka 1956~)

出垣 ロジェリオ(でがき・ろじぇりお/Rogerio Degaki

広本 サンドラ(ひろもと・さんどら/Sandra Hiromoto 1968~)

福島 隆(ふくしま・たかし/Takashi Fukushima

金子 太郎(かねこ・たろう/Taro Kaneko 1953~)

ターニア・マッシャド(たーにあ・まっしゃど/Tania Machado 1960~)

今里 としえ(いまさと・としえ/Toshie Imasato 1978~)

谷口 ヤスシ(たにぐち やすし/Yasushi Tanigichi 1980~)

間部ユーゴ(まべ・ゆーご/Yugo Mabe 1955~)

以上44名(予定)

<第1部巡回会場>

7/3~15 神戸さんちかホール 7/19~8/31 松山三浦美術館 10/14~26 熊本県立美術館



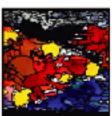
間部学≪Sem Titulo≫制作年不詳/油彩、 キャンバス/102.0×127.0cm

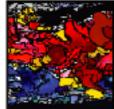


左:大竹富江≪Sem Titlo≫1996年 /280.0×70.0cm

下:広本サンドラ≪Da serie "Objectos Afetivos"-O Abridor≫ 2008年/120.0×70.0cm







金子謙一≪Apocalipse≫2007年/アクリル、 キャンバス/80.0×160.0cm



大岩オスカール≪Arvore de Fogo≫2003年 /油彩/89.0×119.0cm



プレスリリース

出品作家紹介 2

第2部 日本・ブラジル現代アートの交流

■ 三梨 伸(みつなし・のぶお/Nobuo Mitsunashi 1960~)

東京都出身。1988年武蔵野美術大学卒業。セラミックの小片から構成される 彫刻や、野外でのインスタレーション、植物や果物を炭化させた作品など、立体 に対して多岐に渡るアプローチを試みている。1991年に第21回サンパウロビエン ナーレに参加し、以来ブラジルと日本両国で発表を続けている。本展ではブラジ ルの象徴的な産物であるコーヒーを用いた、視覚だけではなく嗅覚にも訴えるダ イナミックなインスタレーション作品を制作予定。

<主な個展>

1989年青山スパイラルガーデン(東京)、1994年セラミックアートギャラリー(東京)、2000・2004年 ガレリア・デコ(ブラジル)他

<主なグループ展>

1986年 第1回国際陶磁器展 '86(岐阜)、1987・1988年 八木一夫賞現代陶芸展(東京、京都他)、1989年「神奈川県藤野町野外彫刻展」(神奈川)、1991年「第21回サンパウロ国際ビエンナーレ」(サンパウロ/ブラジル)、1997年「神奈川アートアニュアル '97 明日への作家たち」(神奈川県民ホールギャラリー/神奈川)他

■ 鈴木 亘彦(すずき・のぶひこ/Nobuhiko Suzuki 1969~)

神奈川県出身。1994年東京造形大学美術Ⅱ類(彫刻科)卒業。1995年~1997年サンパウロにて制作活動。旅先で拾った植物や、新聞や雑誌の断片などを樹脂で固めてガラスの箱に閉じ込めたような作品や、鮮やかな色の樹脂を滴らせた板ガラスで構成された作品など、光と色彩に満ちた作品を制作をしている。

く主な個展>

1997年「透ケテ観エル」(日本橋高島屋コンテンポラリーアートスペース/東京)、1999年「空想雑考」(ギャラリー椿/東京)、2007年「ゾルとゲル―PLASTIC AWAMP」(山木美術/大阪他)他 <主なグループ展>

1995年「Artistas Japoneses Nipo-Brasilieiros contemporaneos」(MAC USP サンパウロ大学付属現代美術館/ブラジル)、2001年「BOX ART Exihibition」(リアスアーク美術館/宮城、新潟市美術館/新潟、他)2005年「Sculputuer Symposium in Chiang Mai」(Chiang Mai University/タイ)他

■ ジャナイナ・チェッペ (じゃないな・ちぇっペ/Janaina Tschape 1973~)

ドイツ人の父とブラジル人の母のもとでドイツに生まれ、サンパウロで育つ。1998年School of Visual Arts (N.Y)修了。自らが女性であることを基底とし、その儚さや強さを、映像や写真、ドローイングなどで表現する。作中に登場する人物は、自身で製作した特徴的な衣装を身にまとっている。今回は生命の原点である水の中を女性がたゆたう幻想的な映像作品《Agua Viya》を大画面を使って紹介する。

<主な個展>

1997年「A Viagem」(Centro Cultural Ricoleta/ブエノスアイレス、アルゼンチン)、1999年「Entering The Space That Produces Liquid」(Jensen Gallerie/ハンブルグ、ドイツ)、2006年「ジャナイナ・チェッペ展」(トーキョー・ワンダー・サイト/東京)他

<主なグループ展>

1997年「Dimensao da Arte Contemporanea Brasileira」(Museu de Arte Contemporanea/ブラジル) 1999年「Face Value- Miyako Projects」(ニューヨーク、アメリカ)、2001年「Panorama da Arte Brasileira」(Museu de Arte Moderna de Sao Paulo他/ブラジル)、「In Riva al Mare Mai Stanco」 (Riviera di Chiaia/ナポリ、イタリア)他

■ 上西 エリカ (かみにし・えりか/Erica Kaminishi 1979~)

ブラジル出身。2004年パラナ州芸術大学(ブラジル)卒業、現在日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程に在籍中。ポルトガル語の詩を細かな字で書き連ねて、有機的な形を描き出すドローイングを制作する。日本再認識したという自らのルーツをテーマに作品を制作。本展では、江戸の古地図の中に描かれた川の流れより着想を得た《In(Verses)Ways》などを紹介する。

<主な個展>

2001年「Metaphor of the Unconscious」(クリチーバ市文化財団/ブラジル)、2003年「Between Addiction and Pure」(メトロポリタン美術館/パラナ州クリチーバ市、ブラジル)2006念「Armorphous Poeplantswords」(CAM美術館/クリチーバ市、ブラジル)他

<主なグループ展>

2006年「第13回バイア芸術公募展」(ブラジル)、「第12回真綿のヴィジュアル・アート公募展」(東京、奨励賞受賞)、2007年「果てしない線」(プロモ・アルテギャラリー/東京)他



三梨伸≪Black, White & Yellow≫2000年/コーヒー ※ガレリア・デコ(ブラジル)でのインスタレーション



鈴木亘彦≪Swanmp of Mirror(植物)≫ 2008年/ガラス、ハンダ、鏡、合成樹 脂、植物/30.0×21.0×2.4cm



ジャナイナ・チェッペ≪Aqua Viva 1≫ 2003年/Cタイププリント/ 76.2×101.6cm *courtesy; nca |nichido contemporary art



上西エリカ≪In (Verses) Ways≫ 2007年/インクペン、和紙/ 76.0×76.0cm (8点組のうち、1点)



関連事業

1.スペシャル・トーク「ブラジルの日系画家」

講師:金子謙一氏(第1部出品作家) (予定)

9月7日(日)14:00~15:00

ブラジルでは俳優としても著名な、金子謙一氏に、日系画家やブラジルでの生活についてお話を いただきます。

2.スペシャル・トーク「芸術文化の大国ブラジル」

講師:金澤毅氏(美術評論家) 9月14日(日)14:00~15:00

ブラジル、南米の美術に造詣の深い、美術評論家の金澤毅氏に、出品作品についてお話をいただきます。

3.連携企画クロストーク「ブラジル現代美術の今」

9月14日(日)14:00~15:00

出演:三梨 伸氏×鈴木亘彦氏×「日本ブラジル交流展」出品作家(予定)

「クリエイティブアートセッション2008/日本ブラジル交流展」(川崎市市民ミュージアムで9月13~10月13日開催)との連携事業。

4.第2部出品作家によるギャラリー・トーク

講師:三梨 伸氏、鈴木亘彦氏、上西エリカ氏

9月23日 (火·祝) $14:00\sim15:00$

5.ボランティアと語るニューアート

会期中毎日 11:30~15:30

横浜市民ギャラリーの登録ボランティア・メンバーが作品や出品作家について、お話をします。 お気軽にお話ください。

6.学芸員によるギャラリー・トーク

9月5日(金)、12日(金)、19日(金)、26日(金) $14:00 \sim 14:30$

いずれも展覧会場で開催。展覧会入場券が必要です。

1,2は事前申込制です(定員20名)。申込をされなかった場合は、お席の用意がありません。 3~6は事前申込不要です。